

(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産はこのところ横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

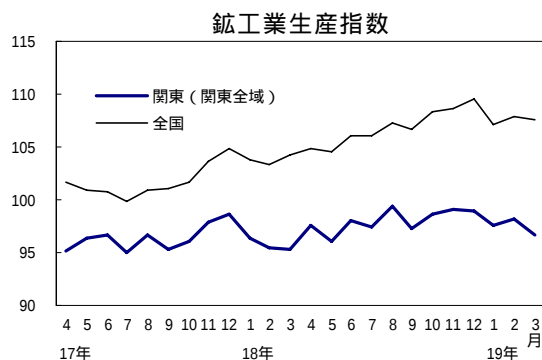
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 19 年 2 月）	今回（平成 19 年 5 月）	
生産	緩やかに増加	このところ横ばい	↓
住宅建設	増加	減少	↓

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はこのところ横ばいとなっている。（関東全域）

一般機械は、プレス用金型は好調であったものの、半導体製造装置が伸び悩んだため、おおむね横ばいで推移している。化学は、フェノールなどの樹脂原料や合成洗剤が好調であったものの、カラーロールフィルムが低調であったため、おおむね横ばいで推移している。輸送機械は、乗用車に使用する駆動電動操縦部品が、前期の反動で振るわなかったため、4 四半期ぶりに減少している。情報通信機械は、大型コンピューターが減少したものの、携帯電話の新規モデルが好調であったため、増加している。電気機械は、医療用 X 線装置が好調であったものの、半導体 IC 測定器の海外需要が不調であったため、減少した。



(備考) 1. 12 年 = 100、季節調整値。
2. 平成 19 年 3 月の関東は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10～12 月期	1～3 月期	1～3 月期	1～3 月期
一般機械	13.8	▲1.6	▲0.8	▲1.3	0.5
化学	13.7	▲0.7	1.0	0.6	▲0.2
輸送機械	11.3	3.7	▲4.4	▲3.7	1.7
情報通信機械	8.6	5.5	5.8	4.5	▲9.6
電気機械	7.9	3.7	▲5.3	▲5.3	▲6.6
鉱工業	100.0	0.9	▲1.4	▲1.8	▲1.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 5 業種。

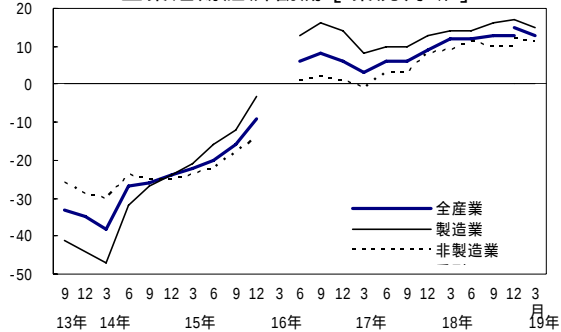
2. 1～3 月期は速報値。

3. 1～3 月期の化学の生産、出荷は、1 月、2 月確報値の平均より算出。在庫は、2 月確報値。

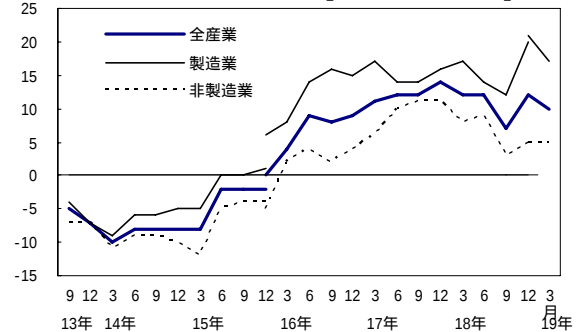
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ縮小している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。

旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。

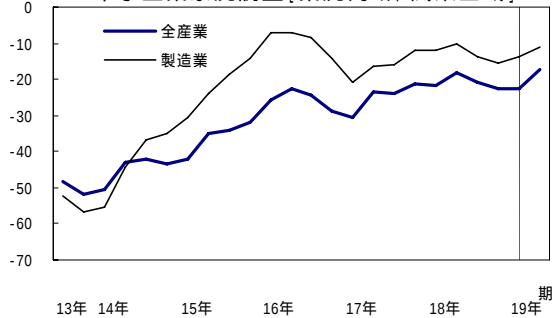
18年12月は新・旧基準を併記。関東全域(新潟県を含む)。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

旧基準は関東全域、新基準は神奈川県。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断、関東全域]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「受注量はなんとか確保しているが、受注価格は適正価格に戻らないうえ、材料費等が上げ止まりで利幅が小さい状態のままである(建設業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 18年度の設備投資は前年度を上回る見込みとなっている。

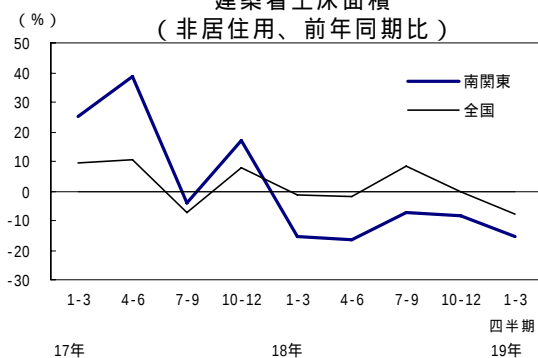
企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	18年度実績見込み	19年度見込み
全産業	7.8(▲2.0)	▲5.2
製造業	11.8(▲1.6)	▲8.2
非製造業	▲2.7(▲3.3)	3.7

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

調査対象は神奈川県。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

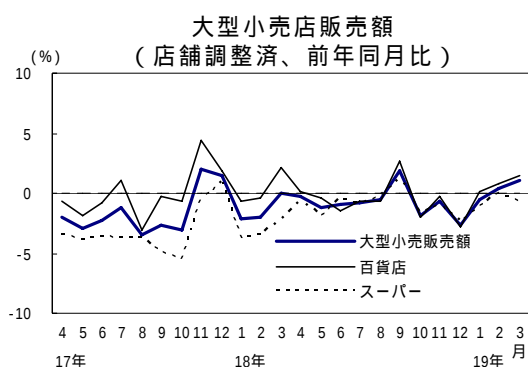
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、暖冬の影響を受け冬物衣料に伸び悩みもみられたが、初売やクリアランスセールが順調で、婦人靴やハンドバック、アクセサリー等の身の回り品に動きがみられ、4か月ぶりに前年を上回った。2月は、気温が高めで春物衣料の動きが良く、節分やバレンタイン需要により飲食料品も好調で前年を上回った。3月は、中旬以降の天候不順による冷え込みで、春物衣料全般が低調だったことや、改装工事の影響で全体の売上が押し下げられ、3か月ぶりに前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、東京地区の4月の売上高は前年同月比1.5%減となっている。

スーパーは、鶏肉や魚貝類が振るわず、野菜は相場安により単価が下落し、衣料品も天候不順が影響して低調となり、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「4月前半は婦人衣料の動きが厳しかったが、気温の上昇に伴い衣料品の動きは良くなってきている。一方で食料品については4月後半に入り横ばいとなり、全体として堅調に推移している。来客数は若干減少となっているが、購買単価が上がっているため、売上は若干増加している(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

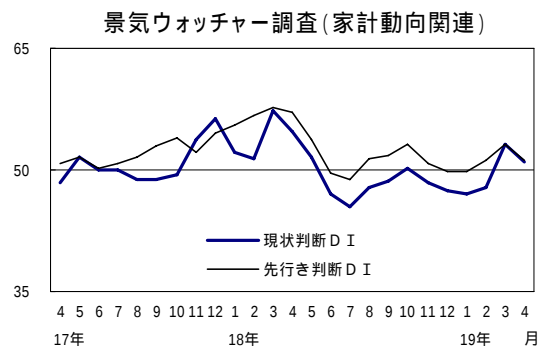
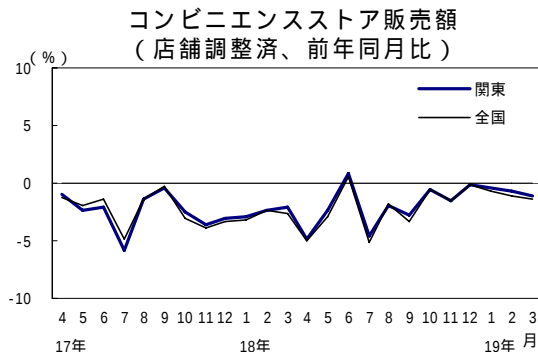


(前年同月比、%)

	18年4-6月	7-9月	10-12月	19年1-3月
大型小売店	▲0.8	0.1	▲1.8	▲0.5
百貨店	▲0.5	0.4	▲1.8	▲0.3
スーパー	▲1.0	▲0.1	▲1.7	▲0.6
コンビニ	▲2.2	▲3.1	▲0.7	▲0.7
景気ウォッチャー	51.1	47.3	48.7	49.4

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。19年1-3月期は速報値。コンビニは関東全域。

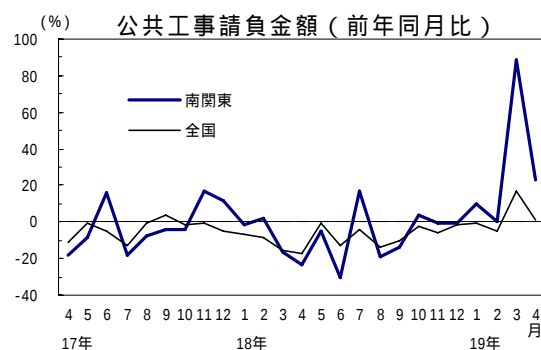
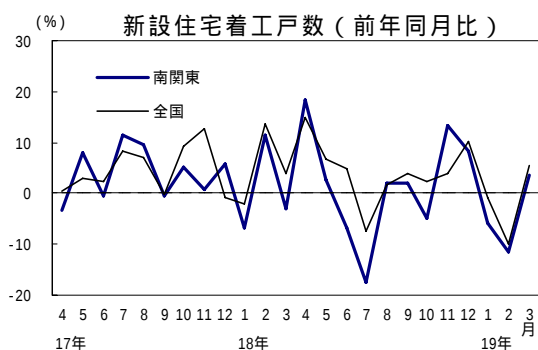
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

貸家、分譲、持家が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は18年度累計でみると前年度とほぼ同水準となっている。

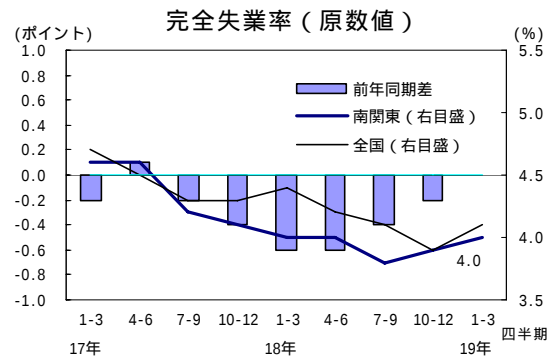
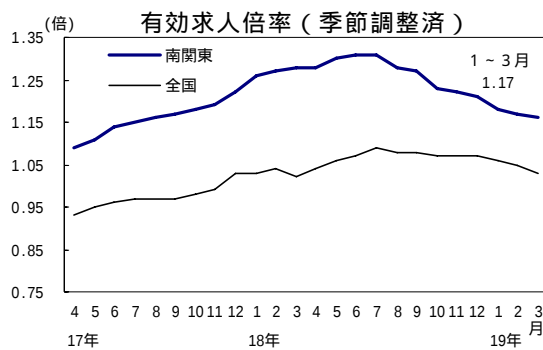


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査（4月）[雇用関連（現状）]

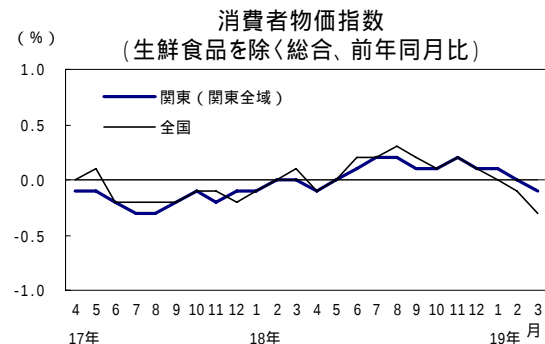
「東京を中心に派遣社員を利用したいという注文が多く、こたえきれない状況が続いており、派遣料金は上がり気味である(人材派遣会社)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	18年4-6月	7-9月	10-12月	19年1-3月	19年4月
倒産件数	898	885	976	1,003	337
(前年比)	▲1.9	▲1.3	3.4	4.5	18.2
負債総額	7,705	2,414	5,190	5,170	3,063
(前年比)	72.5	▲46.8	▲46.3	6.3	28.6



○ 景気ウォッチャー調査（4月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・企画が良ければ客は反応しており、目と財布は相変わらず厳しいが、気に入れば高額品でも購入する客は増えている（百貨店）。

<先行き>

- ・鉄鋼業の業況は活発であり、特に風力発電向けの輸出が数年先まで安定的にある（金融業）。

景気ウォッチャー調査（合計）

